



# 静岡県とスイス連邦 「世界の宝」を 活かしていく ために

2013年に富士山がユネスコ世界文化遺産に登録されてから約3年が経過した。富士山を擁する静岡県は、世界から注目されるとともに、美しい富士山を後世に継承していくという責務も担うことになった。世界遺産という「世界の宝」をどのように守り、活かしていくのか、静岡県の川勝平太知事が、世界有数の山岳観光地アルプスを抱えるスイス連邦のウルス・ブーヘル駐日大使と東京・南麻布の大使公邸で語り合った。

この鼎談は、平成28年1月29日付朝日新聞朝刊に掲載された記事の転載です。

**知事** 富士山は日本の象徴です。元々は信仰の対象、芸術の源泉でしたが、ヨーロッパから登山目的のアルピニズムが伝わり、急速に山登りの対象となりました。山開きの期間には、毎年20万〜30万人の登山者が訪れます。かつてはトイレの汚れやゴミのポイ捨てが深刻な問題でしたが、ここ10〜20年で、頂上に至るまできれいになりました。だれもが「富士山をきれいに保とう」と考えるようになりました。

2月23日の「富士山の日」は富士山への感謝の日です。太平洋側は冬に晴天の日が多く、真冬は富士の白雪が青空に最も映える季節です。冬の終わりに、美しく崇高な霊峰の姿を心にとどめて感謝しようと呼びかけています。

日本で多くの人々がスイスアルプスに良いイメージを持っています。美しく、清潔で、人々が国土を愛している。富士山は日本の国土の象徴です。国土も、もつと美しくあってほしいと願っており、本日は、ブーヘル大使から学べることを期待しております。

駐日スイス特命全権大使  
ウルス・ブーヘル氏

静岡県知事  
川勝平太



スイスはドイツ、フランス、オーストリア、リヒテンシュタイン、イタリアに囲まれた内陸に位置する連邦共和制国家。世界的に有名な企業を輩出するなど、国家として世界屈指の“ブランド力”を持っている。

• 面積: 41万km<sup>2</sup> • 人口: 824万人 (2014年) • 首都: ベルン  
• 主な都市: チューリヒ、ジュネーブ、バーゼル、ローザンヌ

写真: スイス政府観光局

『富士山の日』は  
富士山への感謝の日。

環境は未来の世代から  
借りているもの。

駐日スイス特命全権大使  
ウルス・ブーヘル氏  
ベルン大学卒業、ベルン州弁護士資格取得後、1990年外務省入省。92年外務省政務第1局(独立国家共同体)。96~99年在ブリュッセルスイス政府EU代表部審議官、報道官。2001~10年外務省・経済省統合室政務調整部(スイス・EU関係)部長を歴任し、10年8月から現職。

**ブーヘル氏** ありがとうございます。スイスでは環境保護に何十年も前から力をいれてきました。チューリヒやベルンなどの都市に住んでいる人々も、いつでも自然と触れ合うライフスタイルを築いています。私たちに、今ある自然環境は「未来の世代から借りているもの」という共通の意識があるのです。

スイスには、環境のための民間団体が数多くあります。最も大きいものは「スイス・アルパイン・クラブ」です。スイス国内に14万5千人ものメンバーがいて、登山家が滞在する山小屋の維持や山の清掃などの活動をしています。富士山同様、スイスにも山小屋があります。運営は山の愛好家のボランティアによるもので、営利団体ではありません。一人ひとりが山の「持ち主」の感覚で自発的に環境を見守っているのです。

**知事** スイス人は自然の価値をよく知っていますね。自分たちの資産であり、観光の資源でもある。手つかずの壮大な自然を前にすると、人々は感動し、魅せられます。日本でもボランティアで富士山

ユネスコのエコパークに登録された南アルプスなど、豊富です。日本一多彩な花々や農作物にも恵まれ、ユネスコ無形文化遺産の「和食」に合う良い高級なお茶と日本酒もあります。富士山や南アルプスのもたらす清らかな水、良質な米、酵母からは最高級のお酒もできます。

一方、スイスには、アルプスをはじめ、人々の心をひきつける産業のデザイン力、製品のブランド力があります。その戦略を私たちは学ばねばなりません。

**ブーヘル氏** 例えば時計などのスイスブランドはよく知られていますが、有名なだけではありません。人々が求めるもの、人の心に訴えかけるものを作っています。そのためには、お客様を知らなければいけません。世界に出て行き、人々がどんなニーズを持っているのか探さなければいけないのです。

日本と同様に、スイスにも、高品質で、良い伝統があり、信頼できるものづくりの人たちがいます。それは大きな財産です。しかし、それを活用するには、人々のニーズに応え

の清掃や啓蒙活動をする人たちがいますが、まだスイスほど広がっていません。自治体だけでなく、国民のだれもが、自然の保全活動を、く当たり前前に、自発的に起こうことが理想です。

**ブーヘル氏** 私たちの国では、そのままの自然と触れ合えることは最も大切な権利の一つです。危険なところであっても、ここは登ってはいけない、そこは入ってはいけないという制限は設けません。環境に優しい方法を取りながらも、多くの観光客がそのままの自然と触れ合えるようにしなければいけないのです。

背景が異なる日本で同一に論ずることはできないとは思いますが、民間団体と協力し、ボランティアの活動を促しながら、もつと人々が自然と触れ合えるといいですね。富士登山以外でも、静岡県ほかの場所で日本の美しさを味わうことができる方法を提示して、来訪者の背中を押してみたいかがでしょうか。

**知事** そうですね。富士山のほか、絶景の伊豆半島、駿河湾、浜名湖、

なければいけません。外に出て、アクセナを立てる必要があります。

私の息子が高校生だったときの話ですが、彼が14歳のときはブラジルに6週間交換留学制度で行っていました。翌年はインド、翌々年はカリフォルニアにそれぞれ6週間いました。

**知事** スイスの教育の国際化は特に称賛に値します。日本の教育は思いついた国際化が課題です。世界を知ることが自己発見になります。自分たちの地域の魅力を知るためにも、若人には海外で見聞を広めてほしい。青年よ、扉を開き、海外に出よと呼びかけています。美しい地球の多様な自然や地域社会を体験する。できればスイスに行く。そうした経験が自己研鑽になります。海外経験は人生の宝となります。

**ブーヘル氏** 私たちが日本から学ぶこともたくさんあります。お互いの国を訪ねながら理解を深めていきたいですね。

**知事** 大使にはぜひ静岡県にお越し頂きたい。